

東ドイツにおける民主的土地改革と

農業の社会主義化 (一)

——シュトラスブルク郡の場合——

Otto Rühle; Vom Untertan zum Staatsbürger, 1958.

大 藪 輝 雄

目次(目次は原書のとおりではない)

一、地域の特徴

1、ノイブランデンブルク県の特徴

2、シュトラスブルク郡の特徴

二、民主的土地改革以前の農業構造

1、ユンカーの大土地所有

2、農業労働者の状態

3、農民諸階層

三、民主的土地改革と農業の社会主義化

東ドイツにおける民主的土地改革と農業の社会主義化(一)(大藪)

1、民主的土地改革による農業構造の変化(以上前号)

2、農業における社会主義的セクターの発展(以下本号)

2 農業における社会主義的セクターの発展

民主的土地改革の結果、ユンカーの大土地所有が廃止され、中農が圧倒的部分を占めるようになった。そして、この中農は、国家の援助を受けながら、農耕、畜産ともその生産を拡大していった。しかしながら、中農経営には、こうした有利な条件の下においてさえも、経済的・技術的に規定される客

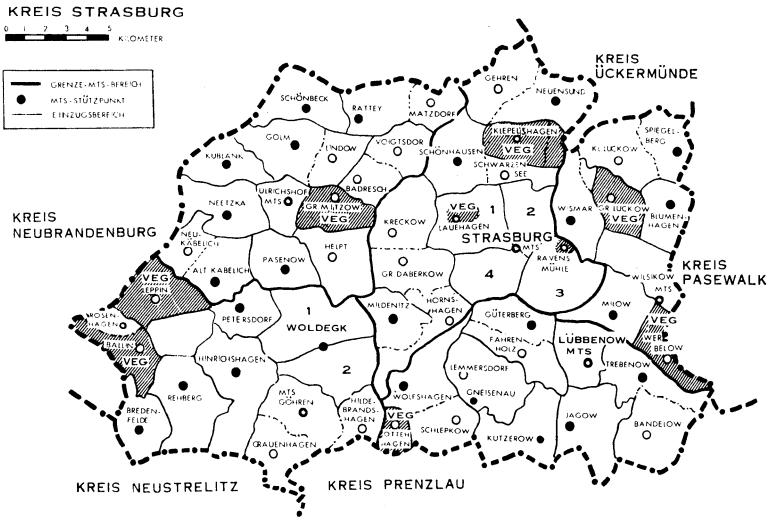
観的限界がある。こうして、比較的小さな、分散した個別経営の協同組合的大経営への移行は経済的に必然である。

こうした大きな社会的変革過程において、近代的技术は卓越した役割を演ずる。一九四九年に機械貸与ステーションM A Sが形成されたが、それはVdgB-Maschinenhofを引継いだものであった。M A Sは、その従業員によって操縦される固有のトラクター、機械、用具を、勤労個人農に貸与した。それは一九四九年から一九五二年まで、農業生産の発展および労働者階級と勤労農民層との同盟の強化に非常に貢献した。しかし、それは、その性格上、農業の社会主義的変革という重大な政治的・経済的課題が成熟した時には、もはや十分でなかった。いまや、農業のより以上の発展に対しても、その社会主義的変革に対しても、責任を負うことのできる固有経営が必要になった。そして、一九五二年にM A SはM T Sに変えられた。

機械トラクターステーション M T S

M T Sは、労働者・農民国家の農村における経済的・政治的・文化的センターである。

MTS-のBRIGADEBEREICHE 1956



第13表 5つのMTSの生産手段価額

(1956年)

M T S	トラクター DM	機械・輸送 手段・用具 DM	建 物 DM	その他の 固定資産 DM
Strasburg	1,306,826	1,426,752	683,404	116,405
Lübbenow	1,167,245	1,487,872	279,830	147,398
Göhren	1,352,863	1,436,175	522,130	128,947
Ulrichshof	1,381,957	1,381,535	235,129	157,086
Wilsickow	652,001	1,007,526	363,029	90,708
合 計	5,860,892	6,739,860	2,083,522	640,544

東ドイツにおける民主的土壌改革と農業の社会主義化(一)

一〇三 (二二七)

シュトラスブルク郡には現在 Strasburg, Lübbenow, Ulrichshof, Göhren, Wilsickowの5つのMTSがあり、その担当区域は前頁の図のとおりである。そこには第一三表のような投資が行なわれている。若干の説明を加えると、

(a) 一九五六年一二月三十一日現在で、5つのMTSに一、二六〇万DMの価額のトラクター、機械、輸送手段、用具が労働者11農民国家によって農民にあたえられているが、それに建物とその他の固定資産二七二万DMを加えると総額で一、三三二万DMになる。

その大部分は、主として一九五〇年から一九五五年にかけてつくられた新しい設備である。DDRには一九五六年に六〇〇のMTSがあるので、シュトラスブルク郡の数字を基礎に計算すると、一五〇億ないし二〇〇億DMが生産手段としてあたえられたことになる。

(b) この生産手段は次のものから成っている。

323	トラクター (15PS に換算すると788台)
53	トラック, 小型トラック, それに116台のトレーラー
255	種まき犁 (うち126は犁棒付)
26	草刈犁
66	播種機
30	馬鈴薯植付機
135	連結式バインダー
29	コンバイン
92	脱穀機
30	干草圧縮機
56	馬鈴薯掘起し機
6	馬鈴薯コンバイン
2	甜菜コンバイン
1	亜麻コンバイン
1	トウモロコシコンバイン

これに加えて、なお数多くの小規模な機械や用具がある。特に重要なのは種々の収穫コンバインである。それは、すべ

での耕作労働で目指している農業の完全機械化の端緒をあらわしている。

(C) 一九五二年に比較して一九五六年には、トラクターで五四・九%、機械と用具で二二・七%、建物で七七・四%、その他の固定資産で二五〇・一%の増加になっている。

こうした生産手段の増加は、M.T.S.の年生産給付の増加をもたらした。それは全面積で一九五二年の五六、六七五ヘクタールから一九五六年の一二七、

経営種別	ha	%
LPG — 料率 I	20,161	26.6
ÖLB, 国有林, VEG — " I	32,057	42.5
10ha までの私経営 — " II	20,672	27.3
10~20ha の私経営 — " III	2,328	3.1
20ha 以上の私経営 — " IV	413	0.5
合計	75,631	100.0

〇九四ヘクタールへと一二四・二%の増加であり、うち耕圃作業は三六、五九一ヘクタールから七五、六三一ヘクタールへと一〇六・六%の増加である。耕圃作業を経営の種類別に分けると上表のとおりである。

これらの数字は、農業における近代技術の進出、進歩した労働方法の適用、労働力の節約、農民の

ための労働の軽減をあらわしている。とくに、そこにはL.P.G.の促進もあらわされている。以前にすでに指摘したヘクタール当り収量増加と畜産経済における成果は、M.T.S.のそれ相応の貢献によるものである。

M.T.S.指導部は、まず第一に、近代的技術の助けで機械体系を配置して、L.P.G.の市場生産をさらに増大する義務がある。完全収穫機はL.P.G.の土地にのみ配置される。というのは、それは、個人農の小規模な分散した土地では有効ではないからである。これについては、ノイブランデンブルク県における実際の経験にもとづく、

1. 20haの栽培区への配置 (1,000×200m)	
直行時間	3,200分
160回の転回時間	80分
20haの栽培区の時間	3,280分
	=54.66時間
2. 各 1ha (各100×100m) の20栽培区への配置	
各栽培区の直行時間	160分
各栽培区の80回の転回時間	40分
1ha の栽培区の時間	200分
コンバインの栽培区間 (3km) 移動時間	24分
小計	224分
各 1ha の20栽培区の時間	4,480分
	=74.66時間

Weimar(運行速度毎分五〇

馬鈴薯完全収穫機 KKR2-

米、作業幅一・二五米)の配置の前頁の表のような例がある。

これによると、馬鈴薯完全収穫機の配置の場合、まとまった二〇ヘクタールの栽培区においては、各一ヘクタールずつの二〇栽培区におけるよりも、二〇時間少なくていいということが示されている。コンバインや甜菜コンバイン等の配置の場合にも同様である。

MTSとLPGの間の共同労働は、シェーネベック方式に則っている。この社会主義的労働方式は、MTSの労働における新しい特質を表わすが、それは、以下の主要原則にあらわされている。

(a) LPGでは、きまったトラクター作業隊、または少なくともきまったトラクター運転手が作業すること。その場合、各作業隊員の個人的責任の強化と密接に結びついたトラクター作業隊の集団の強化。

(b) 新しい方法の適用、適期の播種、注意深い撫育労働、模範的な収穫活動によってヘクタール当り収量を増大するたための、トラクター運転手の具体的目標設定。

(c) 収穫計画の達成または超過達成の場合、報償金に一定割合で参加することによって、生産増大に対してトラクター

運転手に物質的関心を持たせること。

(d) 各作業隊および作業隊内では各基幹トラクター運転手毎に生産と生産費計画を公示すること。

トラクター運転手毎の個人計算を行なうこと。

シュートラスブルク郡でも、シェーネベック方式のこれらの諸原則が実施され始めた。しかし、トラクター運転手、農業技師、MTSのその他の労働者とLPGの成員がシェーネベック方式の社会主義的根柢原則を徹底的に理解し、それをから自身のものにしていなければ、シェーネベック方式は空語にすぎない。シェーネベック方式の成果は、結局トラクター作業隊のすべての隊員と耕圃作業隊のすべての成員が、系統的な政治的、専門的能力を持っているか否かにかかっている。ユンカー時代には農業機械化の程度が低かったことを考えると、農業熟練労働者の数は以前には当然少なかった。今日、MTSの従業員が広汎な近代技術を使用しうるとすれば、それは疑いもなく大きな成果である。しかし、系統的な能力向上のために、まだ多くのことがなされなければならないことは、MTS従業員三七七人の能力を示した第一四表がこれを示している。

第14表 37のトラクター作業隊の常用労働者の資格

職 種 別	未 熟 練	半 熟 練	熟 練 者 労働者 試験合格	専 門 学 校 試験合格	合 計
作業隊 農業技師	—	1	1	7	9
作業隊 隊長	1	28	4	4	37
作業隊 機械工	—	10	25	2	37
作業隊 会計係	—	30	3	—	33
トラクター運転手	11	237	13	—	261
合 計	12	306	46	13	377

この表でみると、かなりの数のM・T・S従業員が教育を終えており、三〇〇人以上が近代的農業技術をまがりなりにも修得していることがわかる。しかしなお、九人の農業技師のうち二人が専門学校教育を終えていない点、作業隊長では八人しか十分な教育を受けていない点、機械工の一〇人とトラクター運転手の大部分が熟練労働者試験を受けていない点を改善しなければならぬ。また、季節労働力三二人のうち二六人（約四〇％）は、かれらの活動に十分な教育を受けていない。それに加えて、M・T・S労働者の移動の激しさがある。一

九五五年七月三十一日に、三七のトラクター作業隊の恒常的従業員三七七人のうち九五人は一年未満であり、これに一〇二人の八一人を加えると四六・六％は就業年限二年未満のもので占められている。そして、二〇三年は六七人、三〇四年は六二人、四年以上は七二人となっている。また、季節雇労働者の場合にも六六％は一年未満就業、二六％が二年未満、三年以上のものは僅か八％である。M・T・Sのトラクター作業隊とLPGの耕圃作業隊との共同労働一つをとってみても、就業年限の長さが生産性の増大に大きな意義をもっていることは明らかである。それは、シェーネベック方式が成果をあげるための本質的前提である。

最後に、シュトラスブルク郡のM・T・Sが、農村における労働者＝農民権力の政治的・経済的・技術的・文化的中心としての指導的役割を、よりよく果たすためになさねばならない主要課題をあげておこう。

(a) M・T・Sの全労働者の中でイデオロギー活動を組織的に改善することが第一に重要である。M・T・S所長から末端のトラクター運転手にいたるまで、資本主義から社会主義への移行期におけるわが政府の農業政策、とくに農業の社会主義的

変革の目的と方法を十分に知っていなければならない。農業の将来について明確な表象を持つことは、MTSのすべての就業者にとって、その毎日の活動を改善するための主要な刺激となる。

(b) シェーネベック方式は、MTSとLPGとの間の社会主義的關係の最もよい例である。これを全面的に、生き生きと貫くことが、MTSの指導部と就業者によって絶えず目指されねばならない。シュトラスブルク郡のMTSは、現存のLPGの理想的支援と並んで、全農用地面積中LPGの占める割合が少ないので、自由意志にもとづくLPGの新設に今まで以上に専念しなければならない。その際、大畜舎の不足を考慮して、第I型のLPGの形成に重点が置かるべきである。ÖLBにおけるMTSの活動も、常にそのLPGへの転換に向けらるべきである。

(c) LPGにおける生産の機械化の確保と並んで、MTSはさらにまた、勤労個人農を困難な耕圃労働において、支援しなければならぬ。それは年間労働契約に基づいて行なわれる。それによってMTSは、その技術援助で、個人農の市場生産の増大にも貢献している。けれども、近代的コンバイ

ンは、採算がとれないので、小規模で分散した個人農の土地には配置されえない。VdGBや地区の国家機関と協同して、MTSは、個人農が、個人農経営に対するLPGの有利性を確信し、とくに中農をLPGへ加入させるために大きな啓蒙活動をしなければならない。

(d) MTSの幹部の現員を絶えず改善することが必要である。そのためには、大学・専門学校卒業生がもつと得られねばならない。MTS自体でトラクター運転手見習を教育し、MTSで働くものの能力を高めることも必要である。労働力移動は最小限にとどめらるべきである。その場合、MTS所在地と作業隊基地における住宅問題の解決が、さらにまたMTS従業員の賃金問題の解決が重要な役割を果たす。

(e) MTSに集中された近代的技術は、もつとよく利用されねばならない。それには、まず第一に、交代労働を出来るだけ多く使用すること、および手入れ・修理規則を厳守することが役立つ。農業のそれ以上の機械化の場合には、慎重に考慮して、完全収穫機の配置がなされねばならない。

(f) MTSの経済問題には、さらに、あらゆる耕圃労働にたいする交代制の徹底した適用、技術的に基礎づけられた原

料消費規準、MTSでの経済計算の漸次的導入といった課題がある。

(e) 有用効果を高めるためには、MTS区域はより合理的な境界にされなければならない。このことは、とくにMTS Wiisickow にあてはまる。それは郡の端の方であって、他の四つのMTSよりはるかに小さい区域である。この区域は無理なくMTS Strasburg 及 Lübbenow に分けられる。Wiisickow 自体には作業隊基地が残さるべきであらう。

農業生産協同組合 L P G

社会主義の建設過程で、小規模で分散した個人農経営が、大規模で集団的な農業経営に何故移行しなければならないかは、以下のように要約される。

(a) 農業の社会主義的変革によって、DDRにおける社会主義の完全な勝利に必要な前提がつくられる。それゆえ、それは、わが労働者＝農民権力のより以上の強化という、最も重要な政治問題の一つである。

単純商品生産が完全に、すなわち農業においても除去される場合に初めて、DDRにおいて資本主義の最後の根が破碎

される。

(b) 同時に、それは重要な経済問題の解決である。とくに、農業において近代技術の最適利用と科学的知識の受容の前提をつくる必要がある。完全機械体系、近代的農業機械——コンバイン、馬鈴薯コンバイン、肥料と農薬散布のための航空機、——そして原子エネルギーはいうまでもなく、小規模な個人農経営では極めて僅かしか適用できないか、または全く適用できない。小経営は、長期的に見れば、農業における労働生産性のそれ以上の増大を妨げ、したがって動植物生産物の最大可能量の生産を妨げる。

(c) 農業の社会主義的変革が急速に進めばすすむ程、都市に対する農村の文化的立ち遅れもますます急速に克服される。近代的技術や科学と共に、農村に文化が進出する。L P Gは自から文化施設を作ることができる。それは、その組合員が文化的行事に参加するように組織する。協同組合農民は、L P Gにおける近代技術の高度の利用とすぐれた労働組織のために、個人農よりも多くの自由時間を持ち、したがって自分の教養と能力向上のために、より多くを為すことができるであらう。

シュートラスブルク郡においては、一九五二年八月十五日、グラウエンハーゲンで、最初のLPGが創設された。それは二人の組合員からなり、六人は新設農民で四人はその妻、一人は工業労働者で一人は鍛冶屋であった。注目すべきことは、これら二人のうち職業が農民であるものが一人もいなかったことである。六人の新設農民のうち、以前には四人が工業労働者であり、二人が農業労働者であった。こうした構成は、シュートラスブルク郡のほとんどすべてのLPGの特徴でもある。長年の経験や修練を経た農民は、LPGの最初の組合員の中にはまれにしか見出されなかった。それゆえ、これら生れたばかりのLPGの組合員は、農業大経営の管理の知識を習得するだけでなく、総じて農業の経験を貯えねばならなかった。同じことは、ノイブランデンブルク県の他の郡の多数のLPGにもあてはまる。旧農民の多数は最初は傍観者の態度をとっていた。初期の協同組合農民は、たいてい進歩的な新設農民や労働者であった。しかし、かれらの多くには、深い農業知識と長年の経験が欠けていた。

グラウエンハーゲンにおけるLPGの設立以前に、ドイツ社会主義統一党のシュートラスブルク郡指導部の農業書記、K

・ホーフェリヒターと郡参事会農業部の指導者K・グスケが関係者と協議した。そこで、土地持ち分の性格、収益の分配、協同組合フォンド、労働過程、畜産、国家の援助などが討議された。グラウエンハーゲンの集会では、さしあたり第I型のLPGにすることに話がきまった。一年後に、かれらは共同養豚に移行したが、その他の家畜はまだ個別的に所有され

		1955年	1956年
農用地面積 (12月31日)	ha	139	169
穀物	dz/ha	13.5	17.6
豆類	dz/ha	12.09	15.1
採油植物	dz/ha	0.68	10.2
馬鈴薯	dz/ha	100.0	205.6
甜菜糖	dz/ha	164.0	127.0
豚	頭数	101	130
牛	頭数	—	51
羊	頭数	3	42
家禽	羽数	—	220
労働単位	1人当り	157	307
貨幣支払	労働単位当り DM	—	6.0
現物	労働単位当り DM	3.1	0.84
財産	DM	219,299	343,564

注) 1 dz = 100 kg

ていた。そのうちにいくつかの大畜舎が建てられ、グラウエンハーゲンのLPGの組合員は一九五六年一月一日に第Ⅲ型に移行することを決定した。最初は若干の困難があったが、数カ月後には第Ⅲ型として安定し、その後はたえず向上きに発展している。その成績は前頁の表のとおりである。

シュトラスブルク郡全体のLPGは、一九五六年一月三日現在、第Ⅰ型が五経営で農用地面積二九七ヘクタール（〇・六%）、第Ⅲ型が二三経営で農用地面積五、五八〇ヘクタール（一一・〇%）、両者合わせて二八経営五、八七七ヘクタール（二一・六%）である。シュトラスブルク郡は、LPGの面積割合ではノイブランデンブルク県（二七・一%）のすべての郡の中で最低である（DDR全体では二三・五%）。一方、シュトラスブルク郡にはÖLBの面積が一五・二%もあって、県で最高の割合である。

者族民族	265
働家農家	45
業の設の	207
農そ新そ	132
20haま	13
そ20ha	7
そ工そ	5
そ	6
そ	7
そ	28
計	775

て、県で最高の割合である。シュトラスブルク郡におけるLPG組合員の社会構成は上のとおりである（一

九五六年二月三日）。

これからわかるように、LPG組合員の八三・七%は農業労働者と新設農民およびその家族から成っている。工業労働者は八・六%で、旧農民とその家族は僅か四・〇%、その他の職業が三・七%をなしている。注目すべきことは、新旧農民とその家族の割合が二・五対一であるのに、農業労働者とその家族の割合は六対一であることである。農民の場合には、以前から婦人が一緒に働くことが普通と考えられていたが、農業労働者の場合には、婦人をLPGに加入させるには相当説得しなければならない。しかし、婦人をLPG組合員にする可能性があれば、労働力問題を解決し、LPG一般を強化するための大きな予備軍があるわけである。

郡の各M T S区域毎のLPGの面積とその労働力は第一五表のとおりである。

これで見ると面積の大きなLPGはNeuensund (710ha), Wilschok (468ha), Wismar (465ha), Bandelow (447ha) であり、面積の小さなものは Carlstust (34ha), Hinrichshagen (47ha), Alt-Käbelich (68ha), Woldegk (68ha), Hildebrandslagen (70ha), Schwarzensee (77ha) である。労働力事情

第15表 シュトラスブルク郡の MTS 区域毎の LPG

MTS 区域 Strasburg			農用地 ha	100ha 当り 労働力	MTS 区域 Göhren			農用地 ha	100ha 当り 労働力
LPG Mildnitz			218	13.7	LPG Göhren			136	19.8
LPG Neuensund			710	15.0	LPG Grauenhagen			169	13.0
LPG Ziegelhausen -Strasburg			202	8.9	LPG Hildebrandshagen (I)			70	10.0
LPG Ludwigsthal -Strasburg			160	15.6	LPG Hinrichshagen (I)			47	12.8
LPG Schwazensee (I)			77	10.4	LPG Woldegk (I)			68	14.7
LPG Carlslust -Mildnitz (I)			34	14.7	LPG Friedrichsau -Woldegk			141	9.9
小 計			1,401 =15.9%		小 計			631=6.8%	
Lübbenow					Ulrichshof				
LPG Bandelow			447	9.1	LPG Alt-Käbelich			68	16.1
LPG Lemmersdorf			278	12.9	LPG Badresch			161	13.6
LPG Lübbenow			137	21.1	LPG Kublank			123	11.4
LPG Schlepkow			191	16.2	LPG Rattey			183	11.3
LPG Trebenow			255	9.0	LPG Schönbeck			277	14.4
LPG Amalienhof -Wolfshagen			192	6.2	小 計			812=7.3%	
小 計			1,500 =15.5%		Wilsickow				
					LPG Blumenhagen			208	10.1
					LPG Groß-Spiegelberg			180	15.5
					LPG Milow			212	14.6
					LPG Wilsickow			468	16.0
					LPG Wismar			465	11.1
					小 計			1,533 =31.5%	

東ドイツにおける民主的土地改革と農業の社会主義化(大藪)

第16表 シュトラスブルク郡の 100 ha 当り家畜頭数 (1956. 12. 31)

	馬	牛		豚		羊	産卵鶏
		総 数	うち乳牛	総 数	うち雌豚		
郡 全 体	10.1	42.9	24.9	116.8	9.1	29.5	143.7
LPG 全 体	4.9	40.6	21.1	110.6	8.6	24.9	84.0
うち 協同組合有	3.9	35.9	16.9	78.9	7.7	21.6	46.0
個人有	1.0	4.7	4.2	31.9	0.9	3.3	38.0
個人農 (大農を含む)	13.7	52.6	33.2	136.3	10.1	27.3	221.3
ÖLB	3.3	21.0	9.0	30.1	2.7	8.1	57.9
VEG	4.6	29.8	12.1	138.3	13.2	66.7	25.5
LPG の計画数 (協同組合有のみ)	3.9	41.5	22.4	110.7	9.2	30.0	152.0

立命館経済学 (第十九卷・第二号)

が比較的いいのは、
Lübberow, Schlep-
kow, Göhren であ
り、労働力不足の甚
しいのは Amalien-
hof, Bandelow, Ty-
ebenow, Ziegelhau-
sen である。

つぎに LPG の家
畜頭数をみてみよう。
第一六表は LPG の
平均と他の諸経営と
の比較を示したもの
であるが、いくつか
の LPG はこの平均
を越えている。たと
えば LPG Schönbeck
と Badresch は同じ
時期に下のような協

	LPGの郡平均	LPG Schönbeck	LPG Badresch
牛	35.9	46	41
うち乳牛	16.9	24.8	22
豚	78.7	114	109
うち雌豚	7.7	17.6	9
羊	21.6	24	27
産卵鶏	46.0	49	53

一一二 (二三六)

同組合有の家畜 (一〇〇ハ
タール当り) を持っていた。
LPG Wilsickow, Ban-
delow, Wismar, Neu-
ensund でも一〇〇ハク
タール当り家畜頭数は右
の平均を越えていた。そ
れにもかかわらず、シュ
トラスブルク郡のすべて
の LPG において、国民
経済計画の計画数にも、
個人農の平均家畜頭数に

も達していないとすれば、その原因は次の諸点にある。

(a) LPG の一部は ÖLB の改造によって発生するか、ま
たは ÖLB の土地を引継いだ。よく知られているように Ö
LB は家畜が非常に乏しかった。

(b) 大多数の LPG 組合員は、あまり多くの家畜を LPG
に持って来なかった。以前の多数の農業労働者や移住者には、
家畜飼養に必要な経験が欠けていた。それゆえ、しばしばそ

の経営は経済的に弱体であった。

(c) 十分な畜舎は、LPGにおける家畜頭数の計画的拡大の前提である。まさにこの点において、以前のOLBやまた以前の個人農経営の欠陥が阻害的なものとなっている。なるほど、とにかくほとんどすべてのLPGに新しい畜舎が建設された。しかし、これらはなお依然として十分でない。

(d) 多くの場合、責任ある国家機関とLPG自身が、LPGの強化と国民の食糧のために、家畜頭数の多いことが持つ意義を過少評価していた。家畜飼育計画の達成が、必ずしも意識的にとり組まれていない。多くのLPGは、なお鶏やがちょうやあひるの飼育にあまりにも無関心である。

(e) それ以上の説明は、時として、飼料基盤が十分でなかったということもある。こうした場合には、間作物やトウモロコシ栽培によって、またその他の科学的に基礎づけられた施策によって飼料の量を増加させることが、たいていほとんど注目されていない。シュトラスブルク郡のLPGにおいてとくに必要なのは、トウモロコシ栽培、なかんずくサイロトウモロコシを増加することである。現在二%しかトウモロコシが栽培されていないが、これを一九六〇年までに六%に高

第17表 郡内の第Ⅲ型 LPG の収量 1956年

種類	LPGの郡平均	最 高	最 低
	dz/ha	dz/ha	dz/ha
穀 物	18.8	27.8	9.0
油脂植物	8.0	13.0	2.0
馬 鈴 薯	94.5	200.0	37.0
甜 菜	152	230	75

めることが必要である。

植物生産の収量は第一七表のとおりである。この表によれば、ヘクタール当り収量は動物生産と同様各LPGで相異なる高さにある。最良のLPGの最高収量は、個人農の平均収量に達するかまたはそれを凌駕している。しかし、郡平均では、LPGのヘクタール当り収量は、現在なおそれ以下にとどまっている。それには、後に述べる他の重要な原因と並んで次のような原因がある。

(a) OLBから形成されたLPGは、長年にわたって放置され、肥料もあまりやられず、あまり耕耘もされていない土地を引継いだ。それは一部は、土地改革の残余地であったが、それらは自然条件の上であまり価値がないか、当時すでに長年に互り荒廃させられていたので、希望者が見られなかった土地であった。それゆえ、こうした欠点が、近代農業技術と農業科学の適用によって克服されるまでには、一定の時間が

必要である。

(b) 勤労個人農の一部もまた、LPGに加入する場合、あまり質のよくない土地や放置されていた土地を持って入ってきた。

次にヘクタール当り貨幣収支をみてみよう。

第Ⅲ型のLPGの貨幣収入は、郡平均で、一九五五年の農用地一ヘクタール当り五四五DMから一九五六年の五六五DMに増加したが、一方貨幣支出は五〇五DMから四六二DMに減少した。これは、シュトラスブルク郡においてLPGも強化される方向にあることを示している。

貨幣収支も動植物生産と同様にLPGによって相違があるが、一九五六年の平均貨幣収入、農用地一ヘクタール当り五六五DM以上のものと、以下のものとは次のとおりである。

LPG Wilsickow	986DM
“ Schönbeck	945 “
“ Ziegelhausen	852 “
“ Göhren	756 “
“ Schlepkow	720 “
“ Milow	688 “
平均	565 “
LPG Mildenitz	320 “
“ Friedrichsau	306 “
“ Trebenow	285 “
“ Kublank	249 “
“ Lemmersdorf	246 “
“ Amalienhof	138 “

高い収入は、主として動物生産の結果がよいことによつて達せられた。第Ⅲ型のLPGでは、収入の約六五%が動物生産から生まれ、三五%が植物生産から生まれた。目標としては、収入の七五%が動物生産から得られ、二五%が植物生産から得られるようにするのがよい。

貨幣支出の点でも郡平均の、農用地一ヘクタール当り四六二DM以上のものと以下のものは次のとおりである。

高い貨幣支出はほとんど例外なく以下の原因に帰せらるべきである。

(a) LPGによつて適正な技術の配置がなされない結果としての、高いMTSコスト。

(b) 大量の種苗の購入。

(c) 飼料の買いすぎ。

LPG Mildenitz	635DM
“ Badresch	586 “
“ Kublank	535 “
“ Ziegelhausen	528 “
“ Amalienhof	513 “
“ Göhren	500 “
平均	462 “
LPG Trebenow	395 “
“ Grauenhagen	372 “
“ Wismar	342 “
“ Rattey	302 “

(d) 小農具の購入のための異常に高い支出。

貨幣収支と、各LPGの純収入および労働単位当りに実現される現実価値とは直接に関連する。第Ⅲ型LPGの場合、一九五六年に郡平均で一労働単位が二・二DMの現実価値になったとすれば、他のLPGでは著しく高い貨幣価値を實現した。すなわち、Ratley 7.88DM, Schönbeck 7.67DM, Wislickow 7.38DM, Ziegelhausen 5.07DM。

現物は、郡平均で〇・八〇DMのうちのものが配分された。最高は(二)でもLPG Ratley の一・二四DM(調達価格換算)であった。

どのようなLPGでも、生産された以上に分配されえないのは自明である。援助貸付があれば別である。この原則は、シュトラスブルク郡の大部分のLPGが経験した出発時の困難を考慮して、今日なお完全には実現していない。シュトラスブルクの二八のLPGのうち、一九五六年には一八が労働単位の補助のために、六DMまでの特別貸付の承認を申し出た。そしてそれはLPG顧問会議と郡参事会で承認された。多数のLPGに対する非常に有効な支援は、短期の借金が大中に棒引きされ、SEDの第二八回中央委員会総会に基づいて

東ドイツにおける民主的土地改革と農業の社会主義化(一)(大数)

最低(援助貸付を含む)	
現物	0.80 DM
貨幣	6.00 DM
合計	6.80 DM
最高(LPG Ratley の現実価値)	
現物	1.24 DM
貨幣	7.88 DM
合計	9.12 DM

て、政府が、借金の支払延期が可能なことを決定したことによってなされた。これによって、シュトラスブルク郡の大多数のLPGも大いに支援された。

一九五六年において、一労働単位に対する支払は第Ⅲ型のLPGの場合上のとおりであった。

LPD組合員によって提供された労働単位は一九五六年で第Ⅰ型の場合一八三、第Ⅲ型で三三八であった。

以上で、シュトラスブルク郡のLPDの現在の発展段階の主要な指標を見たことになる。

これを基礎として、協同組合農民の平均所得を計算しよう。それは協同組合労働からの所得と個人的家族経営の収入から成っている。協同組合労働からの所得計算の基礎として、一九五六年の協同組合農民(第Ⅲ型)一人当たり平均三三八労働単位と一労働単位当りの最低所得六・八〇DMをおくと、次のようになる。

(a) 協同組合労働からの所得は

一一五 (二三九)

6. 80DM × 338 (労働単位)

＝ 2, 298DM

(b) 個人的家族経営からの平均所得

(自家消費を除く。義務供出額は、

一家族経営当り、乳牛一頭の場合は三〇

リットル、乳牛二頭の場合は八〇〇リ

ットルのミルク、一〇〇個の卵、五〇キ

ログラムの豚肉) は上の通り。

つまり、協同組合労働から二、二

自由販売		
2 頭の豚		1, 300 DM
牛乳・家禽等		1, 000 DM
500 個の卵		200 DM
義務供出(牛乳、肉、卵)		150 DM
合 計		2, 650 DM

九八DM(五二・一%)、個人的家族経営から二、六五〇DM

(四七・九%)、合計して四、九四八DMが一九五六年のシュ

トラスブルク郡のLPG農民の平均年間所得である。

これをシュトラスブルク郡の中農一人の年間平均所得と比

較してみよう。

こうした比較の結果が、それ以上のLPG組合員の獲得や

新しいLPGの建設にとって重要な意義をもっていることは

明らかである。われわれの目的はまさに、すべての勤労農民

を漸次LPGに獲得することにある。その場合、収入の高さ

は現在決して第二義的な役割を果してはいない。中農は、か

れの経営をLPGと比較考量する。かれは今日では、未来は
 社会主義的大農業に属すること、それが原則的には個人農経
 営に優越していることを深く信じている。かれは、自分自身、
 喜んでMTSの形で近代技術を利用する。それにもかかわら
 ず、かれは現在、シュトラスブルク郡においては、まだそこ
 にあるLPGに加入したり、自からLPGの新設に参加する
 ことを、ひどくためらっている。

われわれは、中農経営の急速な向上と中農がシュトラス
 ブルク郡で到達した繁栄を指摘した。われわれは、シュトラ
 ブルク郡の一中農家族の平均年所得(自家消費を除く)を現在
 一二、〇〇〇DMと仮定することができる。シュトラスブル
 ク郡においては、LPGによって目下実現される収量は、中
 農によって達成される平均収量よりまだ少ないのであるから、
 現状では中農の平均所得は、なおLPG農民のそれを上廻っ
 ている。

しかし、この一時的な、しかもシュトラスブルク郡でとく
 に強くあらわれている欠陥から、LPGに対する中農経営の
 原則的優越性を導き出すことは根本的誤りであろう。注目す
 べきことはむしろ以下の諸点である。

(a) 中農は、その一〇〜二〇ヘクタール規模の経営で、たいてい三人から四人の自己労働力をもって働いている。したがって、もし真実の比較をしようとすれば、一二、〇〇〇DMの年所得を割らねばならない。すなわち平均三・五人の労働力として、一人当り三、四二八DMになる。他方、協同組合農民の家族から、父のほかになお母と一人または二人の成長した子供(それゆえ、平均して三・五人の労働力)がLPGで一緒に働くものと仮定すれば、それは、一、一八〇労働單位に等しいであろう。それは、われわれが基礎に置いた六・八〇DMの貨幣価値と現物価値の場合には、八、〇四〇DMの額になるであろう。したがって、このLPG農民家族は、家族経営からの収入を含めて一〇、六九〇DMの年所得を得ることになる。すなわち、中農の年平均に僅かにおとるだけである。

LPG Rattery における労働單位当り九・一二DMの現実価値を基礎におくと、三・五人がLPGで働いている家族の場合には、一三、四一一DMの年所得を得るであろう。すなわち、最も進歩したLPG組合員は、すでに今日、中農の平均よりもよい状態にある。

東ドイツにおける民主的土地改革と農業の社会主義化(一)(大藪)

一一七 (二四一)

(b) いま存在するLPGを、全体として一律に、強化された中農経営と比較するのは誤りであろう。シュトラスブルク郡における大多数の中農経営は、土地改革によって発生した。それゆえ、かれらは現在八年から一〇年の年数を経ている。これらの中農は、かれらがいかにして始めたかを自から思い起すであろう。かれらは、なるほど一般に土地は手に入れた。しかし、一九四五/四六年には、しばしば一匹の家畜もかれらにはあたえられなかった。その理由は、それがいなかったからである。民主的国家と土地改革建築計画の援助、およびもちろん自己の努力によって、これら新設農民は、漸次経済的に強化された中農経営に発展した。

シュトラスブルク郡の現在のLPGは、土地の相当部分をÖLBから引継いだ。それは、僅かの家畜しか持たず、土地はしばしば放置されたままで、大きな経営建物はなく、質のよい労働力に欠けていた。LPGの出発点をなした、このおくれた経営に比較して、シュトラスブルク郡のすべてのLPGは、明らかな進歩を示している。実際、LPGは困難にもかかわらず、年々発展し、その収益を改善している。

(c) 大多数の個人農がLPGに加入し、それを、かれらの

経済力と、かれらの労働力とその経験によって強化し、前進させるならば、LPGの家畜頭数は著しく増加し、ヘクタール当り収量は増大されうるといふことを、シュトラスブルク郡の勤労個人農は容易に理解することができる。こうした方法で、なお存在する経済的Ⅱ組織的欠陥は非常に早く克服され、動植物生産の収穫が著しく増加され、農業における近代技術と科学的知識の適用が大巾に改善される。こうして、かならずLPG農民の収入は増加し、漸次今日の個人農のそれを越えるようになる。

(d) 最後に、多数の中農が、若干のLPG農民よりも、より多くの関心をもって、自らの経営で働いていることについて黙っているわけにはいかない。しかし、それはLPGに反対していることを物語るものではない。それは単に、若干のLPG農民が、LPGがかれらの経営であり、かれらはそれをかれら自身の利益と社会の利益のために、結合労働によって助長しなければならぬ、ということはまだ理解していないこととあらわれにすぎない。一九五六年夏の会議で、協同組合の代表によっていくつかの例があげられた。LPG Mildenitzについて、「労働規律がひどい状態にある」といわれている。

LPG Trebenowの議長は、LPGで決められた経営規則を貫こうと誠実に努力したために、「大農業者」と呼ばれた。LPG Schlepkeowからも、労働規律が弛緩している、と報告されている。他方、LPG Wismar, Neuenstund, Carlstust, Badteschについては、協同組合農民は規律正しく働いている、と述べられている。こうして、かれらはLPGの強化と発展に重要な貢献をしたが、それによって、かれらはまた、実直で有能な個人農が、LPGに加入する決意を固めるのを容易にしている。

LPGが増加すればする程、農村の後進性はますます消滅する。新しいものとしてのLPGは勝利する。しかし、それは一挙に勝利するものではない。それは、最初はなお古いものの多くの弱点をもっている。すなわち、ユニカーのⅡ資本主義的過去の痕跡を。というのは、それは、まさにこうした過去に生きていた人間によって建設されるのであるから。その発展は、しばしばジグザグの道をたどる。往々にして、個人農経営が新しいLPGよりも強力なことさえある。しかし、それは一時的、経過的なものである。LPGは政治的および

技術的進歩に合致しており、農業における社会主義的大経営として、政治的・経済的・文化的な点で個人農経営に原則的に優越している。それゆえ、まさに未来はLPGに属する。

人民所有農場 VEG

農業生産協同組合が、協同組合的Ⅱ社会主義的経営であるとすれば、人民所有農場は国家的Ⅱ社会主義的経営である。

VEGにおいては、土地、その他の生産手段、および生産物は国家に属し、国有財産であるが、LPGにおいては、生産手段（国有のMTSの手中にある大規模な生産用具と協同組合農民がまだ所有している土地を除いて）と生産物は協同組合のものである。社会主義的所有のこの二つの形態は、民主的土地改革に関連がある。VEGは没収されたユンカーの土地からか、または以前の資本主義的国有財産や自治体財産から直接に発生した。後になって、たいていまだ無所有の土地がそれにつけ加わったので、今日のVEGは以前の当該ユンカー農場よりも大きな面積を経営している。

VEGの特別の任務は、優良種実、種畜および用畜を生産することにある。こうして、農業一般の高揚のための重要な

前提条件がつけられる。この主たる任務のほかに、VEGは農産物の市場生産物において模範的なものを供給しなければならない。VEGは経営と労働の組織、技術の適正な利用、費用をできるだけ安くすることで模範的でなければならぬ。それは、とくにLPGを系統的に援助しなければならない。

そうしたものとして、種実や苗木、種畜や用畜を、契約でめられた期限内にLPGに提供すること、生産の機械化や技術化において、また職業教育において、LPGを支援することなどがあつた。

一九五六年末にDDRには四六九のVEGが存在したが、そのうち九農場がシュトラスブルク郡にあつた。つぎのとおりである（一〇二頁の図をも参照）。

1) Ballin	712 ha
2) Groß-Luckow	1,066 ha
3) Groß-Miltzow	1,017 ha
4) Klepelshagen	1,334 ha
5) Lauenhagen	483 ha
6) Leppin	1,276 ha
7) Ottenhagen	311 ha
8) Ravensmühle	87 ha
9) Werbelow	808 ha
合 計	7,094 ha

注) 郡内農用地の14.1%

VEG Ballin 及 Werbelow は、農林省によって動物飼育農場として認められた。その他の農場は、一般的生産経営だが、種実や苗木の広汎な増殖を行なつ

第18表 VEG における機械化の発展

期 日	トラクター (15馬力換算)	条 播 機	脱 穀 機	馬鈴薯植付機	コンバイン
1952年 1.1	151	19	21	—	—
1957年 1.1	286	31	24	11	12

ている。Otenhagen は、主として以前の ÖBL の土地から構成されたいわゆる集合農場である。小規模の VEG Ra-yensmühle は主として園耕を目指している。その高い家畜頭数が、それに大量の有機質肥料を確保させている。

労働生産性増大の主な原因は、社会主義的諸関係の下では、生産の機械化と自動化である。

それゆえ、まず VEG における近代技術の適用をみると、第一八表から次の結論が生ずる。

(a) 一九五二年から一九五七年にかけて、技術装備は次のように高まった。

トラクター（一五馬力）	一八九・四%
条播機	一六三・一%
脱穀機	一一四・二%
馬鈴薯植付機	一一〇〇%
コンバイン	一一二〇〇%

(b) VEG と以前のユンカー農場の主要生産手段を対比すると、一〇〇ヘクタール当りでは次のとおりである。

	VEG	ユンカー農場
トラクター（一五馬力）	四・〇三	〇・八三
条播機	〇・四四	〇・〇八
脱穀機	〇・三四	〇・一八
馬鈴薯植付機	〇・一五	〇・〇〇
コンバイン	〇・一七	〇・〇一

この比較によれば、VEG は過去のユンカー的Ⅱ資本主義的大農場よりも、技術的にさらに著しく発展している。もちろん、過去一二年間に農業技術は一般的に進歩した。しかし、この相違を、なによりもまずこれに帰着させるのはあやまりであろう。問題なのは、社会主義的生産諸関係の優越性から生ずる原則的相違である。

シュトラスブルク郡のようなおくれた郡においては、農業における近代的技術と科学的知識の導入と適用は、とくに重要である。われわれはすでに、M.T.S. が農村における近代的技術と科学の主要な中心であることをみた。ここから、L.P.G. は技術的Ⅱ科学的援助を受け、個人農経営は技術的Ⅱ科学

的に支援されている。M.T.Sと並んでV.E.Gは、国家的に社会主義的模範経営として、農業におけるそれ以上の技術化、機械化、自動化にとって大きな意義をもっている。同じことが、政治的な点でV.E.Gについていえる。それもまた農村における労働者階級の拠点である。

	古い方法		完全機械化	
	DM	分	DM	分
耕種準備	4.80	210	4.80	210
犁床	7.80	360	7.80	360
耕耘	4.53	246	4.53	246
培肥	5.50	300	5.50	300
收穫	51.60	2,800	33.18	850
合計	74.23	3,916 =65時間16分	55.81	1,966 =32時間46分

郡内で機械化が今までに最も進歩しているのはV.E.G Werbelowである。一九五七年には、このV.E.Gに二台目のコンバインが来る。それによって穀物栽培と穀物收穫の完全機械化の前提が与えられる。一ヘクタール当りの穀物の賃銀費用は計画では上のようになっている。

これによれば、一ヘクタールの穀物のための労働投下は三二・五時間だけ減少する。

一ヘクタール当り三〇ドッペルツェントナーとすれば、一ドッペルツェントナー当りの労働投下は僅か一・一時間である。これはこの時期の世界水準に一致する。たとえば、イギリスの農業大経営では穀物一ドッペルツェントナー当り二・五労働時間であり、アメリカの大穀物農場やソ連のソホーズでは平均一・一労働時間が投下されている。穀物收穫の完全機械化は、一九六〇年までにシュトラスブルク郡の全V.E.Gで行なわれることになっている。

馬鈴薯の場合、V.E.G Werbelow における一ヘクタール当り労働投下は、現在二六三時間である。現在最良の馬鈴薯栽培機を完全に使用した場合、それは二四八時間に減少される。馬鈴薯と甜菜はシュトラスブルク郡のV.E.Gの耕地の約三分の一を占めている。労働ビークは両者とも無育労働の時期と收穫期に生ずる。それだけに、労働力を節約する機械体系を創出し導入することが重要である。

同じことは、畜舎労働や屋内労働にもあてはまる。こうして現在まだ厩肥の搬出のための満足すべき機械体系が存在していない。その結果、冬作物のために厩肥を畑に運ぶことが

第19表 シュトラスブルク郡の 9VEG の家畜頭数の増加

	牛		豚		羊	家 禽	
	総 数	うち乳牛	総 数	うち雌豚		鶏	がちょう
1945年12. 31	190	60	660	69	540	150	—
1952年12. 31	1,908	640	6,531	691	5,405	1,308	11
1956年12. 31	2,117	860	9,813	937	4,735	3,342	30

できない。というのは、同じ時期に
 耨耕作物の収穫があり、労働過重に
 なるからである。冬期になって初め
 て、そのための労働力が自由になる
 が、それはヘクタール当り収量に悪
 影響をおよぼす。
 畜産の発展は第一九表のとおりで
 ある。
 (a) 第二次世界大戦後の異常に少
 ない家畜頭数に比較して、シュトラ
 スブルク郡の九つの VEG の家畜保
 有は、一九五六年一月三十一日まで
 に著しく増加した。その場合、忘れ
 てならないのは、VEG の家畜は、
 その大部分が精選された種畜であり、
 それは単純な用畜にくらべて調達す
 るのが困難であるということである。
 VEG はまた継続的に種畜や用畜を
 国家的取引会計を通じてか、または

第20表 9つの VEG の 100ha 当り家畜頭数

(1956. 12. 31)

	牛		豚		羊
	総 数	うち乳牛	総 数	うち雌豚	
Leppin	22.5	10.1	130.6	13.1	87.4
Ballin	33.4	11.6	63.8	14.7	116.8
Werbelow	37.5	16.4	145.4	14.5	—
Groß-Miltzow	42.3	14.6	232.9	18.6	77.0
Groß-Luckow	22.6	9.3	109.3	11.0	89.6
Ottenhagen	11.7	6.5	46.9	5.2	—
Lauenhagen	31.0	13.1	94.9	9.4	—
Klepelshagen	28.6	11.9	158.5	19.6	78.0
Ravensmühle	61.6	30.3	307.1	89.7	—
VEG 平均	29.8	12.1	138.3	13.2	66.7

直接に、その他の社会主義的経営に交付する。ここから、一
 九五二年から一九五六年にかけての羊の頭数の減少が説明さ
 れる。県段階では羊の頭数は減少せず、右の期間に五二、四
 四〇頭だけ増加した。VEG の豚の頭数は一〇〇ヘクタール
 当り一三八・三頭で郡平均の一六・八頭を大中に越えてい
 る。牛の頭数は一〇〇ヘクタール当り二九・八頭で、今日な

お個人農経営やLPGのそれ以下であるのは、現在、多数の家畜のための畜舎がまだ十分でないためである。より大きな畜舎が存在するところでは、牛の頭数も多い。

(b) シュトラスブルク郡の各VEGの家畜頭数の間には大きな相違がある。それは第二〇表のとおりである。一〇〇ヘクタール当り最小の牛頭数は集合農場 Ottenlagen の一一・四頭、最大は VEG Ravensmühle の六一・六頭である。VEG Ravensmühle はまた一〇〇ヘクタール当り最大の豚頭数を持つているのに、Ottenlagen は最小である。家畜頭数における大きな相違は、畜舎面積の大きさの相違から説明される。VEG Ravensmühle は、比較的、最大の牛舎と豚舎を持つている。過去数年間に、その他のVEGに、さしあたり種豚と肥育豚のための畜舎がつくられた。大きな肥育豚の施設(千頭から二千頭用)が、VEG Klepelsagen, Groß-Miltzow, Werbelow, Lauenhagen, Leppin に建設された。こうした畜舎の建築は豚頭数が比較的多くなるための前提であった。第二次五カ年計画では投資は主として乳牛と仔牛の畜舎の建設に向けられている。

(c) 郡内のVEGの一〇〇ヘクタール当り平均家畜頭数

東ドイツにおける民的土地改革と農業の社会主義化(一)(大数)

第21表 VEG・国営農場・騎士農場の家畜頭数比較

	牛		豚		羊
	総数	うち乳牛	総数	うち雌豚	
VEG 郡平均	29.8	12.1	138.3	13.2	66.7
国営農場 Ballin	36.0	11.0	28.0	—	145.0
国営農場 Rosenhagen	29.4	17.6	39.4	…	88.2
騎士農場 Lübbenow	23.7	5.2	44.4	…	88.9
国営農場 Schönbeck	25.0	12.0	20.0	…	60.0

(一九五六年)を、以前の国有地や騎士領地のそれ(一九三八年)と対比すれば第二一表のとおりである。

この比較では、VEGが豚飼養で以前のユンカー農場をはるかに越えていることがわかる。僅かの例外を別とすれば、以前には大土地所有者は穀作と牧羊に集中していた。

それは、たとえば何故羊の頭数が、当時は今日のVEGにおけるよりも多いかをも説明する。しかし、VEGは羊飼養を改善することができるし、

また改善しなければならない。一九四五年以前の牛と羊の飼養の特別の場合には、国営農場 Ballin であった。それは今日のシュトラスブルク郡において指導的なものであった。それゆえ、VEGの平均と比較してもこの国営農場の方が有利で

ある。VEG Ballin は、その年々増加する牛と羊の頭数で、以前の頭数ビークを凌駕しようとしている。VEG Warbelow と Groß-Miltzow とは、今日すでに以前の指導的な国营農場 Ballin よりも多くの牛頭数を持っている。

第22表 シュトラスブルク郡のヘクタール当り平均収量

	1954年 dz			1956年 dz		
	VEG	郡平均	個人農	VEG	郡平均	個人農
小麦	30	28.2	28	25	23.7	24
ライ麦	26	24.3	24	24.5	22.0	22
大麦	25	25	25	21.5	22.2	24
小麦	31	26.9	26	26	22.7	22
小麦	28	25.2	25	26.2	24.8	25
燕麥	27	24.5	24.1	28	25.5	25.5
甜菜	320	311	310	210	225	227
馬鈴薯	215	221	222	157	176	184
飼料用カブ	398	420	423	380	219	315
飼料作物	65	65	65	50	50	50

次に植物生産の状況をみよう。植物生産の最も重要な基準は、ヘクタール当り収量の高さである。第二二表をみると、

(a) VEG のヘクタール当り平均収量は、穀物では郡平均よりも個人農平均より

りも高い。それはVEGが穀物経営ではシュトラスブルク郡のすべての農業経営のトップに立っていることを示す。

(b) 甜菜と馬鈴薯では、VEGはまだ最高には達していない。その原因はVEGにおける労働力不足である。

(c) 飼料用カブや飼料作物の場合には、VEGのヘクタール当り収量は個人農と同じか、場合によってはそれ以上である。これは、VEGが、その畜産をそれ以上発展させるための有利な条件をつくる過程にあることを示している。

ユンカー農場のヘクタール当り収量と比較すれば、平均して以前の状態を越えている。けれども一九四五年以前には、今日までなおVEGによって到達されていない最高収量を持つ農場が存在した。こうして Ballin, Rosenhagen, Ulrichshof といった国营農場またはユンカー農場からは、小麦でヘクタール当り四〇ドッペルツェントナーの最高収量が報告されている。馬鈴薯や甜菜の場合にも、少数の場合だが今日なお到達されていない最高収量が存在した。

VEGは、有利な農業技術的前提にもかかわらず、今日まで何故こうした最高収量に到達していないのかという問題が生ずる。明らかに、一方では今日の技術の高い発

展状態や社会主義的生産関係の原則的優越性と、他方ではわがV E Gの平均的には高いが、なお上述の最高値には劣るヘクタール当り収量との間に矛盾がある。

この矛盾は次のような根拠をもっている。

(a) 戦時中と戦争直後の数年間は、収穫量は非常に減少した。こうして、一九四五年から一九四七年にかけては、穀物では、しばしばヘクタール当り単に六〜八ドッベルツェントナー、馬鈴薯では五〇ドッベルツェントナー、甜菜では七〇ドッベルツェントナーであった。こんなにまで低下したヘクタール当り収量を、以前の水準に高めるには、非常な努力と労働を要したことは自明である。とくに何年間も十分な肥料も優良種実も使用できなかったのであるから。

(b) 大土地所有者は、なによりもまず穀作に集中していた。そこでは畜産はたいへなおざりにされた。耨耕作物はユンカー農場でも栽培されていたが、それは今日、土地諸関係と国民経済的要求を考慮して行なわれている程度には、はるかに及ばなかった。その結果、以前には労働力問題は、数的には今日程ひっ迫していなかった。それに加えて、ユンカー時代の高い搾取率がある。総じて、労働力は今日よりも集約的

に配置されていた。以前の所有者や借地人の一部は、多量の人造肥料を適用し、最高度に自給肥料を使用し、第一級の種苗を栽培した。それによって上述の高収量を達成したのである。他の大土地所有者は、さらに土地の掠奪耕作を行ない、小麦の一面的な単作によって高い利潤を得ようとしたが、土壤構造を改良するか、少なくとも維持するためには、僅かのことしかなさなかつた。多数の農場では——たとえば *Wet-below* において——こうしたやり方で土壌の腐植土の欠乏が生じた。一九四五年以後においても、最初は土地豊度を高める仕事は、徐徐にしかなされなかつた。それは最初の頃、しばしば経営指導者が変わつたためでもある。一九五〇年以後、大多数のV E Gにおいて、系統的に土地改良の努力がなされる。シュトラスブルク郡の指導的なV E Gは、近い将来、最良の国営農場や騎士農場の最高収量を達成し、それを追い越すであろうことが期待される。

(c) わがV E Gの指導部と勤労者は、今までは、かれらに社会主義的生産諸関係があたえる可能性を、完全に、またはいくらかでも完全に利用することはできなかった。このことは技術的能力の最適利用、社会主義的経済原則の貫徹につい

ていえるが、また社会主義的労働規律の状態にもあてはまる。まさにこの後者は、今日なお満足すべきものではない。一九

第23表 シュトラスブルク郡の9つのVEGの労働力構成

(1956)

VEG	労働力数		内 訳				農用地面積 ha
	計 画	現在数	耕 圃	飼 育	管 理	見 習	
Ballin	171	128	68	20	11	29	712
Groß-Luckow	188	167	126	27	12	2	1,066
Groß-Miltzow	201	145	78	34	13	20	1,017
Klepelshagen	254	195	123	44	17	11	1,334
Lauenhagen	81	81	60	10	10	1	483
Leppin	282	239	141	35	7	56	1,276
Ottenhagen	42	30	20	5	5	—	311
Ravensmühle	45	45	33 ¹⁾	6	6	—	87
Werbelow	126	107	79	18	9	1	808
合 計	1,390	1,137	728	199	90	120	7,094

注) 1. 園耕労働者21人を含む

労働部門	労働力数	100ha当り
耕 圃	728人	10.3人
飼 蓄	199	2.8
管 理	90	1.2
見 習	120	1.7
合 計	1,137	16.0

注) 農用地面積は7,094ha

加えて、一二〇人の見習がいるが、これは職業教育が主であ
 (a) 計画数に対して総数で二五三人不足している。それ
 第二三表からつぎのことがわかる。
 の一つは労働力問題である。
 シュトラスブルク郡のVEGにおいても、最も困難な問題
 一つは労働力問題である。
 四五年以前にユンカー農場では、出来高払い労働、縦隊制度、
 現物賃金、解約の威嚇等による労働規律が強制されたのだが、
 こうした方法は、わが労働者＝農民国家には無縁である。V
 EGにおける労働規律は、勤労者の次のような意識、つまり、
 かれらは自分自身の経営で働いており、かれらの国民と自分
 自身のために働いているという意識にもとづいている。
 ない。
 算すると、実際に存在する労働力
 は、見習をも含めて各労働部門に
 平均して上のように配分されてい
 る。
 管理部門で働いている労働力は

農繁期だけに限られ、見習は教育過程にあるので三〇％に換算されるということを考慮すると、一〇〇ヘクタール当りの平均労働力は一三・六人になる。VEG Groß-Juckow と Leppin が一〇〇ヘクタール当り最も多くの労働力を持ち、

Ottenhagen が最も少ない労働力を持っている。園耕労働力を持つ VEG Ravensmühle を別にすれば、シュトラスブルク郡の VEG の労働力数は DDR の平均以下である。たとえば、ライプツェヒ県の VEG Trossin と Klein-Wilkau では一〇〇ヘクタール当り二四人の労働力である。

今日の VEG の労働力数を、以前のユンカー農場のそれと比較するには困難があるが、その場合、以下の諸点を注意しなければならない。

(a) ユンカーや大土地所有者は、比較的少数の基幹常用労働者を保持していた。三月から一月まで、かれらは季節労働者を引入れたが、それはきびしい出来高払いで働いた。それによって、かれらは冬期の賃銀を節約した。

(b) ユンカー農場における牛と豚の頭数は、平均して今日の VEG におけるよりも少なかった。極めて労働集約的な耕作物の栽培も、今日より著しく少なかった。

(c) 農業見習は、騎士農場や国営農場には存在しなかった。VEG の見習の場合、注意すべきことは、かれらが教育過程にあり、それゆえに VEG の労働力としては約三〇％にしか計算されえないということである。

(d) 農繁期中 VEG には、経験によれば一〇〇ヘクタール当り約二人の労働力がつけ加わる。それは VEG の管理者と村からの労働予備および工業地区からの手伝人である。

こうした点を考慮するならば、すでに述べたように、VEG においては、一〇〇ヘクタール当り一三・六人の常用労働力になる。以前のユンカー農場には、一〇〇ヘクタール当り六・七人の常用労働力しかいなかった。農繁期には、その数は、とくに多数の外国人シュニッターによって一六・四人に増加した。

それゆえ、以前のユンカー農場の一〇〇ヘクタール当り常用労働力は、今日の VEG のその五〇％以下であった。それは、常用労働力を少ししか使用しないが、多数の季節労働力、とくに外国人シュニッターを使用するというユンカーの戦術のためである。この戦術は、農業労働者が以前におちこんでいたきびしい搾取を示している。少数の常用労働力は、

その上に、今日V E Gにおけるよりもはるかに僅かの技術しか使用できなかった。労働密度は過去には、もっと高く、その上になお労働日はもっと長かった。しかし、賃銀は今日よりはるかに低かった。労働力はたいいてい、その価値以下に支払われていた。

全労働力（常用十季節雇）を対比すれば、ユンカー農場が一〇〇ヘクタール当り二・八人だけ有利である。V E Gの、はるかに改良された技術は、この二・八人の差を相殺するだけではない。それは養畜の増加と耨耕作の増加にもかかわらず、労働密度の低下と、それによる労働の軽減に導いた。V E Gの全労働力問題の解決のためには、機械化の遂行が決定的な意義をもっている。しかし、高い技術だけでは、なお労働生産性の増大に導かない——それは高度の社会主義的意識と、立派な専門知識を持った人間によって使用されねばならない。重要なのは、労働力の数だけではなくて、またその質である。最後に、もう一度強調しなければならないことは、V E Gが農業における社会主義的セクターの重要な構成部分であるということである。それはシュトラスブルク郡における新しいものを体現している。戦後の困難な諸条件にもかかわらず、

それはすでに今日平均して、以前の騎士農場や国営農場よりも高い発展状態に達している。しかし、V E Gの指導部や従業員はまだ、この社会主義的経営が提供するすべての可能性を利用しつくしてはいない。目標は、シュトラスブルク郡のV E Gが完全に模範的な大経営になるようにすべての努力を傾けることである。

地区農業経営 ÖLB

シュトラスブルク郡で最も困難な問題は、地区農業経営（Die örtlichen Landwirtschaftsbetriebe）の問題である。一九五六年一月三十一日に、それは三三経営、農用地面積七、六一五ヘクタールで、ノイブランデンブルク県のÖLB面積の約三〇%を占め、県内では他を引離してトップに立っている。ÖLBは郡内で経済的・組織的に最も弱体な農業経営である。その原因は主としてその成立史の中にある。

(a) 以前のユンカー農場や国営農場には、しばしば、その所有者によって、何年間もとくに荒したままにされているか、または自然条件から耕作の困難な土地があった。しばしば、それは農場からなお数キロ離れていた。こうして、それは休

閑地や荒蕪地であり、おそらくはやせた牧羊地として使われていた。それにといて、民主的土地改革遂行の際、希望者がほとんどみられなかったのは理解できる。一九四五年までシュトラスブルク郡に存在した五一の騎士農場と九つの国营農場には、こうして比較的多くの残余地が残っていた。それは、戦後も依然として休閑地であった。一九四七年以後、その土地は、非常な困難を克服して漸次経営されるようになった。最初は郡参事会の、後には市町村参事会の指導の下に。労働力、家畜、経営用・居住用建物は、この残余地にはもともと存在していなかった。

(b) 主として一九四八年から一九五三年の時期に、シュトラスブルク郡からも、様々の大農がDDRを立ち去った。一定数の勤劳農民も同様の間違つた決断をした。経営の放棄によってその土地が休閑地となった。そして、こうした土地がÖLBに付加された。

(c) 個人農が病氣や老令のため、その経営をもちや続けることができない場合に、同様の結果が生まれた。

ÖLBは、つまるところ、人のいない土地を放つたらしかしておかないで経営するための一時的便法である。結局は、す

べてのÖLBは一定の時期にLPGに変えられるか、LPGに併合され、または何らかの形で有益な社会主義的農業経営にされなければならない。現状は次の如くである。

(a) 労働力数は、ÖLBの郡平均で一〇〇ヘクタール当り七・八人である。二つの大きなÖLB、JagowとWoldgkは、おのおの約八五〇ヘクタールの農用地を持っているが、一〇〇ヘクタール当り僅か五人の労働力しかない。その結果、経営の遂行に多くの困難があり、生産の結果は悪い。

(b) 家畜頭数は、さきにもたように、郡平均以下である。VEGやLPGの家畜頭数をまず増加させるという課題があつて、ÖLBに必要な若い家畜をあたえることができなかった。その上に、畜舎、飼料、労働力が不足している。さらに農業労働者には家畜飼養に必要な経験が不足している。家畜の生産性も郡平均以下である。

(c) 植物生産の面でもÖLBは郡平均以下である。一九五六年の平均で、ヘクタール当り穀物で一七・五トッペルツェントナー、馬鈴薯で一二五トッペルツェントナー、甜菜で一八五トッペルツェントナーである。

一九五三年から一九五六年にかけて一二のLPGが以前の

ÖLBから発生した。LPG, Schönbeck, Wismar, Bandelowのような、そのうちのいくつかは、今日では郡内で最も進歩したLPGになっている。LPG, Trebenow, Woldegkのような他の経営は、大きな困難とたたかっている。それゆえ、すべてのÖLBのために、科学的に基礎づけられ、全面的に考えられた発展計画が樹立されなければならない。その中には、短期間のうちに、それをLPGやVEGに変える施策も含んでいなければならない。

農業労働者の状態の変化

一九四五年以来、東ドイツにおいて行なわれた社会的変革は、もちろん農業労働者の社会状態をも根本的に変化させた。多数の農業労働者は、民主的土地改革によって土地を手に入れ、自立的な勤労農民になった。しかし、農業労働者にとどまったものは、いまやVEGで働いた。だが、私的経営の農業労働者にとっても、無権利と不安定の時代は去った。一九四五年一月二七日のソ連軍管理局命令一五〇号に始まり、一九四九年一月二日の農業労働者保護法にいたる一連の法律が、すべての農業労働者に、よりよい労働条件をもたら

第24表 VEG の生産労働者の賃率 (1956年1月10日)

	時間賃銀 DM	給付基礎賃銀 DM	仕 事 の 内 容
I	0.80	0.92	屋内と耕地での単純労働
II	0.83	0.98	簡単な用具を使用する労働
III	0.90	1.04	堆肥積込み、土塊や糞尿の運搬の如き重労働
IV	0.96	1.10	蒸気犁の牽引、操作、運転などのむつかしい労働
V	1.03	1.18	肥料の手撒布、農業機械の操作の如き責任ある労働
VI	1.11	1.28	トラクターの操作と運転
VII	1.27	1.46	機械を装置し、操作しうる脱穀機係または機械係
VIII	1.48	1.70	運搬や小修理等特別の責任のある脱穀機係

した。一九四六年には、農業において最初の賃率協定が締結され、シュトラスブルク郡の人民所有農場にも適用された。VEGの労働諸条件の改善について述べる。

(a) 賃銀

一九五六年現在の賃率は第二四表のとおりである。畜産の労働者にも同様の賃率表がつくられているが、これがエンカー時代にくらべてはるかによくなっていることは明

第25表 一日当り食糧品支給率

区 分	肉	ヘット	バター	ミルク	パン	麦製品
常用労働者と季節雇労働者	120 ^g	25 ^g	50 ^g	— ^l	575 ^g	80 ^g
1才までの子供	50	—	40	1	300	50
1才5才までの子供	50	—	40	1/2	300	50
5才9才までの子供	50	—	40	1/4	350	50
9才15才までの子供	50	10	30	1/4	400	50
労働しない妻と家族員	60	15	30	—	400	40

らかである。婦人にたいしては、

同一労働同一賃銀の原則が適用されている。さらに、村々では

幼稚園、託児所、洗濯場等の建設によって農業労働者や農民の妻の生活を容易にすることが始められている。

(b) 食糧の給付

すべての就業者とその三人までの非就業家族員は、調達価格を支払って第二五表のような支給率で食糧を受取る。

食用馬鈴薯はすべての受給権者に月二五キロあたえられる。

とくに健康によくない仕事に従事する労働者や妊産婦には、追加の食糧が支給される。そのほかに受給権者は砂糖の割当を小売価格で受取った。

区 分	1月当り	1時間当り
独身者	18.72 DM	0.09 DM
子供のない既婚者	29.12 DM	0.14 DM
子供1人の既婚者	39.72 DM	0.19 DM
子供2人の既婚者	50.32 DM	0.24 DM

調達価格と小売価格との差額は農業労働者の所得増になるわけだが、それは月当りと一時間当り（月二〇八時間働くとして）では上のとおりである。

(c) 住宅

(i) 家族をもつすべての常用労働者は賃率協定によって、その地域の普通の家賃を支払って、適当な住居を借りる。住居のためには、特別の賃借契約を締結しなければならない。というのは、家賃は賃銀の一部ではないからである。

(ii) 常用労働者は、自分の土地や小作地を持っていないならば、世帯毎に六二五平方メートルの園地を個人用として受け取る。労働者の希望によって、果樹が植ええられる。その果実はVE Gの所有であるが、そこで働いている間は農業労働者が無料で使用できる。

(iii) 独身の農業労働者も、そのために建てられた、鍵つき、暖房つきの部屋、または共同住宅をもっている。

ただし、住宅問題はなお多くの困難をかかえていて、住宅

不足を出来るだけ早く克服することが、緊急の必要事である。

(d) 有給休暇、疾病給付

一九四九年の農業労働者保護法には、年に一二日の有給休暇が規定されている。若者と健康によくない仕事に従事する労働者は、二日から二四日の有給休暇を得る。

事故によって労働不能になった場合には、賃銀補償が支払われ、再び労働可能になるまで、または労働不能と認められるまで継続される。病気による労働不能の場合には、最初の日から疾病保険が支払われる。そのほかに、六週間までの労働補償が経営から支払われる。

(e) 職業の可能性

一九四五年以前には農業の専門職は、メクレンブルクでは非常にまれであった。それが存在したところでは、それは認可を受けた教育経営（たいていは大農経営）において、二〜三年の修業期間で修得された。さらに、羊飼、搾乳夫、養蜂家、家禽飼育人としての専門教育が可能であった。それは同様に二〜三年を要した。大農場には農場管理人になるか、または父の騎士農場を経営するために、後に大学に入ろうとする生徒がいた。農業冬期学校では、二年の修業の後に職人試

験がなされた。最後になお、「国家試験による農業者」で終了する、農業における中間的経路も存在した。シュトラスブルク郡の区域内は、一九四五年までは、たいてい一人の見習を持った少数の農業教育経営しか存在しなかった。農業専門職のための比較的大きな教育所も農業職業学校も存在しなかった。一九四五／四六年に、人々は農業教育所をますます拡大し、新しいものをつくり始めた。一九四六年にシュトラスブルクとウォルデックに農業職業学校が開かれた。一九四九年に VEG Leppin と Ballin に各二〇人の定員をもつ最初の中央教育所が開かれた。その後、それに Gross-Miltzow が加わり、一〇四人の定員に増加された。約六〇人のトラクター運転手見習が M T S で教育された。若干は私経営でも教育され、L P G でも見習の教育が始められている。一九五〇年から一九五六年に一六〇人の農業幹部が教育され、約一六〇人の農業幹部が外部から郡内にやってきた。これら四二〇人の熟練労働者や専門家は、郡の農業にとって大きな助けになっている。以前には未熟練日雇労働者が普通であったのに、今日ではわが農業に二〇の相異なる専門職が存在する。

農業職業教育においてなお欠陥が存在することを見直す

第26表 100ha 当り生産労働者
(1956. 12. 31)

経営	農用地積 用面	ha	常用労働力	100ha 当り 労働力
VEG	7,094		967	13.6
LPG	5,877		775	13.2
ÖLB	7,615		591	7.8
合計	20,586		2,333	11.3

東ドイツにおける民主的土壌改革と農業の社会主義化(一)(大敷)

MTSに集中している労働節

VEGその他が払えるよりも高い対価で他人労働者を雇うこ

ことは許されない。それにもかかわらず、民主的土壌改革以後の最初の一二年間に、農業労働者の状態に生じた重要な変化は明らかである。抑圧され、搾取されていた農業プロレタリアから、自由で、共同決定権のある農業労働者になった。これらの生活はより容易になった。すべての農業労働者は、かれの経済状態をたえず高める可能性をもっている。より高い資格への道もすべての農業労働者に開かれている。

農業における労働力の状態

戦前のユンカー経営や国营農場では、平均して春先から晩秋まで、一〇〇ヘクタール当り一六・四人の労働者が働いていたことはすでにみたとおりである。今日、シュトラスブルク郡のVEGやLPGやÖLBの労働力数は極めて少ない。それは第二六表のとおりである。

約的技術を考慮してさえも、VEG、LPG、ÖLBの労働力数は、以前のユンカー農場のそれ以下である。それに加え、全栽培面積に対する耨耕作物の割合は、今日では一九四五年以前よりもはるかに大きい。したがって、労働力の状態はさらにひっ迫している。われわれは、シュトラスブルク郡の農業の社会主義的セクターにおける最も困難な問題に直面する。

シュトラスブルク郡では、今日戦前よりも七、〇〇〇〜八、〇〇〇人多くの人が生活している。それは、全体として労働力の著しい増加を意味する。しかし移住者はたいてい、新設農民地を引き受け、それをかれらは、大部分今日もなお自立的農民として経営している。こうして、移住によってもたらされた人口増加は、主として個人農経営の中にかくれている。農業の私的セクターにおける農用地一〇〇ヘクタール当りの労働力数は二七人で、社会主義的セクターにおけるよりも二倍以上多い。この労働力数の高さが、社会主義的経営に対して個人農経営がしばしばよい成果をあげた理由である。高い収入は、様々の個人農に、労働が集中した時期には一時的に、

とを可能にする。それに対する有効なコントロールは、個人農の場合にはほとんど不可能である。しかし他方では、個人農は、かれらが年老い、子供達が都市に仕事を求めた場合には、作業を終えることが困難でもある。

シュトラスブルク郡の社会主義的セクターにおける労働力の状態は、個人農をその家族と一緒にLPGへ加入させられるだけ改善されるであろう。すなわち、現在シュトラスブルクで農業に従事している者を、郡内の総農用地面積と対比すると、農用地一〇〇ヘクタール当り二人の労働力という数字が出るが、これはあらゆる点で妥当な割合である。個人農が自由意志に基づいてLPGの組合員になる場合を仮定すれば、個人農経営におけるよりもはるかに有利な、近代的技術と科学的知識の適用に対する前提があたえられ、労働生産性は極めて高く、労働力の状態ははるかに有利になるであろう。それゆえ、労働力問題の解決に関しても、農業の社会主義的変革を考えなければならぬ。

労働力問題のこうした見透しにたいして、農業における労働力減少の傾向は深刻な問題である。第二七表は五つの村の農業就業者の動向をしらべたものであるが、そこでは一九四

第27表 5つの村の農業就業者の動向

村名	1949. 7. 1	1953. 1. 1	1956. 7. 1
Bandelow	200	204	213
Mildenitz	180	176	161
Pasenow	143	130	144
Petersdorf	200	218	153
Wismar	146	133	104
合計	869	861	775

一三四（二五八）
 九年から一九五六年の七年間に九四人 \parallel 一〇・四％の減少がみられる。

この原因としては次のようなことが考えられる。

(a) 労働能力はあるが農業部門で就業していない婦人

一九四五年以前には、村には労働能力があつて農業に就業していないような婦人はいなかった。しかし、一九五六年に上の五つの村で一一八人の婦人が労働能力があつても農業で働いていない。これは、一つには村で老人の数がふえた結果でもあり、また、新しく村にやってきた人々の中には家事以外に婦人が働く習慣のない場合があり、さらに、近年農業労働者所得が向上したためでもある。

(b) 職員層への流出

五つの村の調査では、職員になるものの数が年々ふえており、それは一九四九年に三九人、一九五三年に六七人、一九

五六年に九九人になっている。この中には警察や軍隊に志願した若者もふくまれているが、主要な部分は協同組合や社会的、国家的組織の職員である。そして農業労働力の減少の四〇〜五〇％は職員層への流出である。

(c) 農村青年の職業選択

学業終了後、農業を職業とする青年の割合は最近減少している。ペーターズドルフ村の調査では、一六才の青年について、一九四九年には一〇人中九人(九〇%)が農業に就業したが、一九五六年には一九人中一人(五八%)と大巾に減少している。これは、青年とその両親が、近代的農業の将来とその意義について十分確信を持ちえないことの一つのあらわれである。

(d) 「共和国逃亡」の問題

過去に農民が、たいていは大農が、共和国の領域を立ち去ったことは秘密ではない。その理由は、普通、経済的性格のものであったが、しばしば国家機関の過度の施策がその動因をあたえた。とにかく、三つの事が明らかにされている。

(i) DDRの地域を立ち去った大農にも、わが政府によって復帰が呼びかけられている。かれらは、農民所有地を引き

受けることができるし、またかれらが望む他の仕事と、よい生活を手に入れるであろう。

(ii) 大農もまたLPGの組合員になる可能性を持っている。これについてW・ウルブリヒトはSEDの第三回党大会で次のように説明した。「われわれはまた「大農に対する闘争」を、大農を清掃する意味で述べはしなかった。そうではなくて、わが国ではすべての農民は未来を持っていると説明した。それゆえに、DDRの新建設に協力しようとしている大農にはLPGの組合員になる可能性が与えられている。現在までに約二、〇〇〇人の大農がLPGの組合員になっており、大多数の場合、かれらの専門的知識によってLPGを援助しようと努力している」と。

(iii) SEDの第二八回中央委員会総会にもとづいて行なわれた施策によって、個人農には重要な便宜があたえられた(有利なMTS料率や供出の猶予や取消)。それは、困難や不十分さを急速に克服し、すべての農民に、DDRはかれの真の祖国であるという確信をあたえるのを助けるであろう。

シュトラスブルク郡では、工業労働者が非常に不足しているが、それに労働力一般の不足が加わり、社会主義の建設を

困難にしている。それゆえ、一九五三年から始まった「工業労働者が農村へ」の活動は大きな援助になる。

シュトラスブルク郡参事会はカール・マルクス市参事会と友好協定を結んだが、工業から有能な幹部を送ることはその重要な部分である。そのほかに、ドレスデン県から工業労働者がやってくる。一九五三年と五四年には十分慎重に選抜されなかったもので、非常に多くのものが送り返されたり、自から帰ったりしたが、一九五五年と五六年には事態は大いに改善されており、一九五六年に來た二二人のうち、年末までに帰ったのは二三人だが、この二二人のうち、八五人がLPGに、四〇人がMTSに、六一人がVEGに、三三人がLBに働いており、三人が国家機関にいた。住宅事情その他の改善によって受入れ体制を固めることが必要である。

おわりに

以上でもって、民主的土地改革以後の最初の一〇年間ににおける農業の発展についての研究を終えることにする。われわれは、勤労農民、農業労働者が、労働者階級の政党の指導の下に、それと固く結合して、土地の主人公になった歴史的変

革を叙述した。さらに、如何にして、かれらの多くが、自己の努力と労働者農民国家の支援によって裕福になったかを示した。しかし、われわれは、近代的技術と科学的知識の適用を限界づける個人農経営の制限性をも指摘した。個人農を、一步一步、自由意志に基づいて、新しい社会主義的大生産にひき入れることが必要である。それは、忍耐、真の説得、正しい経済的手段を必要とする。すでに存在するLPGは、あらゆる点で、個人農にたいする模範になることが必要である。われわれは、個人農が社会主義的農業の道に移行する錯綜した過程から、いくつかの問題をとり出した。そして、その際、MTSと地域の国家機関の特別の役割を指摘した。たしかにシュトラスブルク郡には、まだ果すべき大きな仕事が残っている。しかし、この郡においても社会主義建設の目的は達せられるであろう。それを明確にするのを助け、正しい道を歩むのに協力すること。これが、わが研究集団が自からに課した最も重要な課題である。

〔訂正〕 前号八九頁の図で、ノイブランデンブルク郡が太線で囲んであるのは誤りで、その隣のシュトラスブルク郡を太線で囲むべきである。